

### 騒音も環境基準以上

▲こえV 田辺兼雄さん(商  
業)  
とにかくうるさいし、振動も  
昨年(昭和49年)の八月に中央通り交差点  
で行なった調査では、朝夕が六  
十四ホン、昼七十ホン、夜間五  
十七ホンと、騒音規制法による  
自動車騒音の限度(朝夕七十  
ホン、昼七十ホン、夜間五十  
六ホン)より低い結果とな  
っています。

▲こえV 岸貞男さん(会社  
役員)  
窓を開ければ騒音とはこり、  
前任地の村上は、市街地から固  
道が離れていたもので、その点  
よかったです。

▲こえV 岸貞男さん(会社  
役員)  
朝は四時ごろになるともう寝  
てはいられません。しょうがな  
いとあきらめてはいますがね。

### 騒音公害の影響

音の大きさ (ホン)	人体への影響
60	睡眠が妨げられる 病気のとき寝ていられない
65	落ちつかない 勉強できない 腹がたか顔をしかめる
70	食欲が減退 頭痛、耳鳴 会話のじゃまになる
75	血圧が上昇する
85	ほとんどの人が気持ちをいら せさせる ビタミンB1の消費が非常 に増えて疲労の原因となる 難聴をおこす
90	胃液の分泌量が3割に減り消 化不良となる



### 多い死亡率の高い事故

昨年、市内で起きた交通事故  
は百八十七件。そのうち死亡し  
た人が十人。負傷した人三百十  
人となっています。

とくに死亡した人の数を、人  
口十万人当たりとしてみた場合、  
県内で一位という、ありがた  
ない記録となります。

こんな中で、国道は、事故件  
数(八十六件)、死亡者数(八  
人)ともすべてトップを占め、  
魔の国道」という異名までとる  
ほどです。

死亡事故の内容は、車が自転  
車のりをはねる。歩行者の飛び  
出しなどが原因で起きた事故が  
一番多く六件となっています。  
また、死亡事故にはなってい  
ませんが、人家への飛び込み事  
故も起き「夜も安心して眠てい



▲47年に起きた飛び込み事故、安心して  
眠ていられないという声も……。

### 解決策 バイパス と拡幅

それでは、どうすれば国道に  
まつわる、いろいろな問題を解  
決できるか——考えてみなくて  
はなりません。

ひとつには、現在の道路幅員  
を広げる。いまひとつは市街地  
をさけて通るバイパス線の建設  
が考えられます。

これについて皆さんの意見も  
さまざまで、田辺さん、田辺さん  
は「周辺に住宅がふえている現  
状から、拡幅はむずかしいので  
は」とバイパスが必要と述べて  
います。

同じ必要という意見の中でも  
中央通りのMさん(商業)の声  
は「いずれはバイパスが必要と

### 意見は二つ

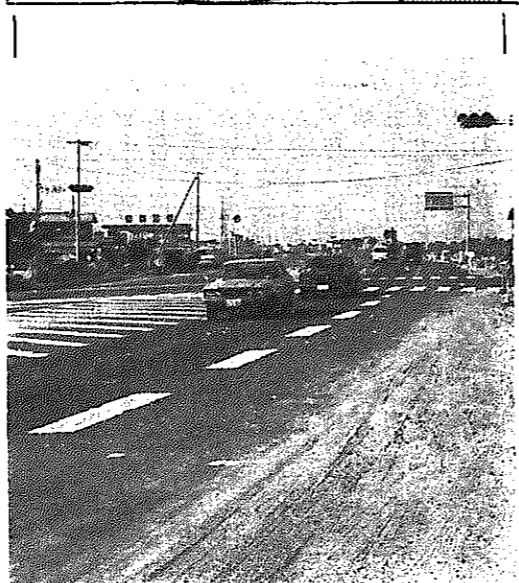
▲こえV 長井澄子さん(主  
婦)  
二度も飛び込まれました。二  
度目の時は、車と眠っていた主人  
との間が、三十センチくらいで  
した。考えただけでゾォーッと  
します。

体の具合が悪いときは眠てい  
られないし、早くここから逃げ  
だしたいような気持です。

私たちは、事故の多い国道が  
市街地を通過している現実を、よ  
く認識し、運転する人も横断す  
る人も十分に注意しなければな  
りません。

思うが農地をつぶされる農家の  
人たちのことを考えるとネー。  
今段階では無理じゃないです  
か」とバイパス建設のむずかし  
さを心配しています。

### バイパス・思考



昨年開通したバイパス線。車も楽に  
走りま〜す。

# 見附バイパスを たぐずねて

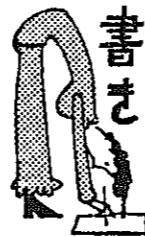
このページは、見附市で取材  
してきたものです。  
実際に農地を提供した人、国  
道沿いに住んでいた人から、生  
の声を聞いてきました。

昨年十二月二十五日に開通した国道  
八号線「見附バイパス」は、距離二千  
五百三十メートル、幅員十二メートル(将来は二十  
四メートル)で見附市街地と今町の真

中を走り、中之島村へ通じるもの。  
このバイパスが開通したこと  
で、今町と中之島村の町並を走って  
いた国道八号線は、大幅に交通量が減  
少。

大型車はもちろん、今町・中之島村  
に直接通らない車は、バイパスを利用  
国道周辺の人も、ようやく騒音、  
振動、事故から解放され、一安心とい  
ったところ——。今後は、主要か所に  
信号機を設置を要求して、市を上げて  
運動を展開して行くそうです。

### 聞き書き



見附市建設課課長補佐  
徳田文雄さん



バイパス建設の動  
機は、交通渋滞や冬  
の雪おろしなどで、  
国道がおもうように  
機能が果せなかつた  
こと。

それに住宅への飛び込み事故が、多  
かったなどが上げられます。  
そこで、隣りの中之島村といっしょ  
に、バイパスの必要性を国に訴え認め  
てもらったわけです。  
建設にあたっては、市民の強い反対  
はありませんでした。

星忠太郎さん(見附市・上新田)

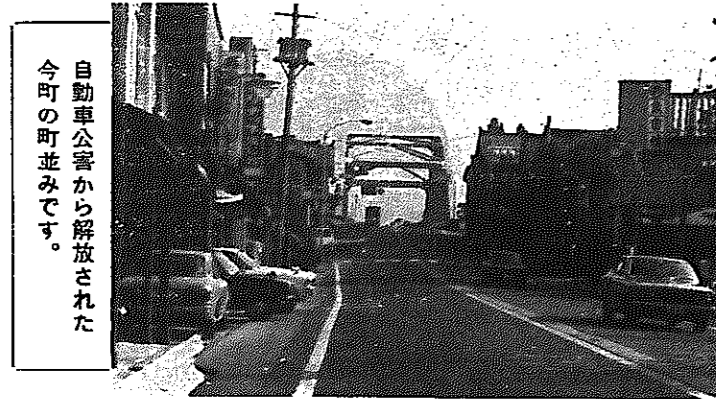


部落内で、委員会  
をつくり、皆んなで  
バイパスの勉強  
をしました。私自身  
もできることなら農  
地はつぶしてもらい  
たくなかった……。  
でもネー——この時世だから、国・市  
がそのつもりならばしょうがないと覚  
悟したんです。  
いまのところ、バイパスの向う側に  
ある田の、農作業には支障はありませ  
ん。

長谷川潔さん(見附市・今町)



家の前に、国道が  
走っていたもので、  
バイパスができてよ  
ろこんでいます。  
東京の者が泊まる  
と、向こうよりか  
ましいとよくいわれました。  
今では、県道見附・手板線より交通  
量が少なくなっています。



自動車公害から解放された  
今町の町並みです。